

オリーブの樹

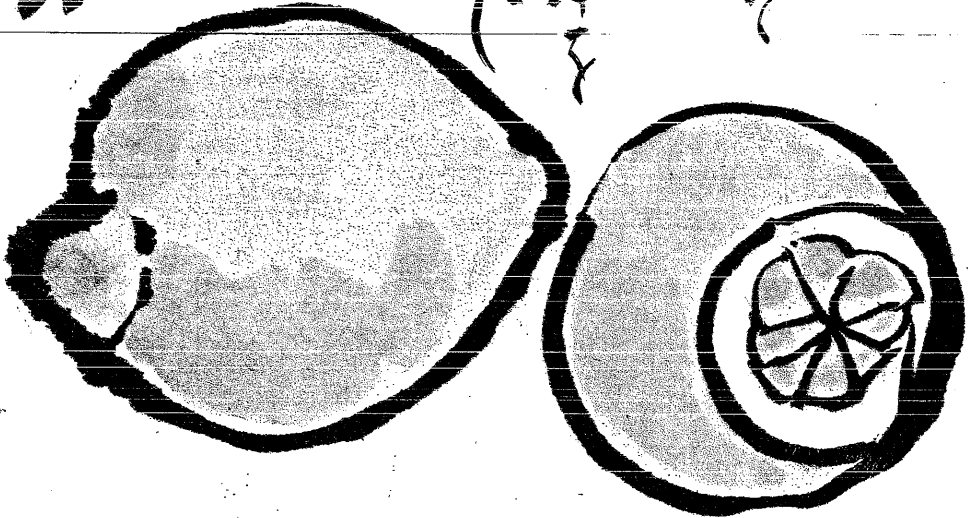
第122号

2014年3月16日

شجرة الزيتون

早期积放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！

命賭けて
九条
日本を
まもるべし
戦争
出来る
国など
いらぬ



音

目次

- P 2 1月2月の歌 重信房子
- P 3 独居より 重信房子
- P 14 読んだ本 重信房子
- P 18 安倍晋三の超憲主義 萩尾遼
- P 19 暴走内閣を止めろ！！ 辻邦

重信房子さんを支える会

一月二月の歌

重信 房子

冬山に倒れし君は老いもせず若さのままに我が胸に棲む
 誰だったか記憶の途を行きつ戻りつ姿の見えぬ老に抗う
 正月の歌壇にあふるる秘密法危ぶむ歌に希望みる獄
 ヒヨドリつひの鋭き一言ふりむけば南天桐の実争い啄つばむ
 靴紐をきつく結びつ思ふこと友情時に辛きことあり
 吾子の背を抱えて洗う幸せの冬のひと日を思ひ出す獄
 国境に上弦の月渡るとき歩哨照らせば小銃光る
 パレスチナを奪われ住みしシリアの地戦火に追われるナクバの民よ
 三・一一忘れ果てたか三年目原発輸出だ再稼働だと



喧居よい) 1月10日~3月10日

安倍政権はまた暴走の道へ「武器原則禁輸転換」。「秘密法」「再稼働」「集団自衛権」。「靖国参拝」以降ますます露骨。(2月24日)

重信 房子

1月10日 仕事始め前、小寒5日から本格的な寒さ。快晴の青い空と白い霜の今日の八王子は最高6℃最低-6℃とのこと。ニューヨークも北極からの寒波でひどい、零下1℃とか。最高気温が5℃以下になると本当に寒いですが、快晴の明るさが気持をひきたててくれます。もう「七草」も終って新年気分は抜けて、東京では都知事選の話。脱原発の都知事になればいいけれど……。

安倍は中東・アフリカへと企業売込みなど経団連会長のよう。近隣諸国に挑発をくりかえして、遠くへ出かけて覇を競う「積極的平和主義」は「集団的自衛権」や「改憲」まで国民無視で進めそうです。都知事選から国際政治など、あらゆる機会に安倍暴走を回天されることが出来ること願いつつ毎日の記事を見ています。もうお便りや資料などや本雑誌も新年仕事始めからいただいています。ありがとうございます。

クラゲンの絵はがきも今年になって受け取れました。竜子さんの絵手紙ありがとう。今年もよろしく！ U君も娘との父としてのあり方の総括、いい父娘関係ですね。Mさん一首“顔見ればホッと安堵する法案の廃案求め人々集う”(1月6日)。デジカメ歌人小寒の便りの中から一首“二つ三つ枯葉と思ひ出巻き込んで駅広の真中つむじ風走る”。写真も楽しい。また旧友からは「パレスチナに愛を」のブログありがとう。メイからも便り。それから友人からも「レバノン各地が衝突が徐々に始まりだしています」と内戦を危惧するお便りと資料。みんなの交流で心も眼も開かれ、熱く思いめぐらしながら新年の日々を過ごしています。ちょうど届いた「泉水国賠訴訟」を読み、泉水さんの文章作業のがんばりに触発されています。泉水さんは遅筆でも丁寧、良い文を昔から書いていましたね。

1月13日 快晴の成人式です。3連休、快晴続きで寒さも青空見ると、凌ぎやすい。この間、都知事選に細川元首相の立候補が浮上。安倍政権は、今日の新聞にも「集団的自衛権の行使容認」の憲法解釈変更案を4月にまとめるとのこと。安倍政権に歯止めをかける流れをつくる機会としても、都知事選は脱原発候補

一本化で勝利してほしいものです。「細川なんて」と言っても切りがないし、「勝てる陣型」とれば、新しい流れが加速するはず……と思っているところです。各護市長選もまた安倍政権との攻防の大きな節目。一つ一つ「安倍イズム」を変革の方に流れを変えたい！

1月14日 寒波で日本列島は一番の寒さとかで、八王子も最高6℃最低-5℃と寒い。連休明け久しぶりの外気は肌にピリピリします。パンジーと日々草は元気に咲き誇っています。

中東情勢の資料受け取りました。シリアの内戦では1月22日と決められていた和平会議「ジュネーブ2」も作用しているのか戦乱は拡大し、イラク、トルコの国境に近い地域では、反体制派同士の戦いや虐殺・拉致と、支配地域をめぐる争いが広がっています。住民は虐殺を逃れて避難する事態はシリア全土に及び、レバノンは国境地帯ばかりではなく、戦争拡大をねらった勢力によってペイルートでも爆弾事件が多発しているようです。430万人のレバノンの現人口に、86万人のシリア避難民がいるという。小さな国は経済的・政治的・物理的にも難しいところに、戦乱まで拡大です。今年の中東情勢は住民を犠牲にさらに混乱しそう……。

寒中見舞い、Mさんありがとう！ Tさんもこんな一句がいいですね。“反戦も恋も詠むべし初句会”。

1月15日 Kさんの送ってくださったアーティストのためのフリーマガジン「つくりびと」1月号受け取りました。「注目の現代アーティスト」6人の一人としてKさんの作品の写真が載っています。みごとなヤマシャクヤクの自然のままのドライフラワーです。「野の花へのいとおしみが漂う命あるものの小宇宙がみてとれる」と評価の高い批評文付き。「不思議な錯覚が生じてくる。どうやらガラス箱に在る効果らしい。見つめる自分が小さく縮んでいって、いつか箱の中の花に潜り込んでしまう。そんな錯覚を楽しませてくれる世界がある」と。前に写真で送ってくださったのですが、本当に！ 自然で、そう錯覚しそうです。

1月16日 今日はグラウンド運動日和だな！と起床時からの快晴に“初外出運動”が楽しみ。10時半出発。今日は8-3℃の気温。寒くなると患者で外の運動許可は少なく、今日は最も少ない。ラジオ体操で天を見上げると雲一つない真っ青な気持ちのよい空。さすがに蝶は飛んでいないけど、すでに枯芝の下に緑の芝やクローパー！思ったより暖かくウォーキングで下着が汗ばんできます。やはり外気はちがいますね……と東拘の将司さんらに思いを馳せつつ。

新聞では自民党内からも都知事選細川候補になびいているらしい。「弱者」や「福祉」を重視する脱原発候補の宇都宮弁護士や支援する共産党らは独自にこれまでの政策を訴える構えのよう。戦略的に見れば、細川が別々に出馬し、選挙戦で勝てば無視されるし、敗ければ「一本化しなかったからだ」と非難されそうなので、政策共闘して統一候補とした方がいいのに……。でも「弱者無視」宇都宮無視で「元総理連合」は舞い上がっているのか、それとも統一に謙虚にとりくむのか？ わかりませんけれど。

ちょうど「オリーブの樹」121号が届きました。「エアインタビュー」を巻頭に入れたり、マンネリ化しないようにちょっと工夫してみました。タンポポの表紙絵、カラーならいいのに！ 十二支の絵もいいですね！ これからも自由自在に絵を、今年もお願いします。

日誌の元旦のおせち料理はわかりにくくて失礼しました。これから、自分の書いた日誌を読み返しつつ、みんなの批評を描いていくのが楽しいのです。萩尾さんの文もゆっくり読みます。短歌は凡作ばかりの中選んでくださってありがとうございます。本も70年代の資料も届き、読みたいものに囲まれています。ここに居る間に勉強しなければ……と。

お便りありがとうございます。“御用御用秘密保護法縛につけ”。この句も味があります。寒さ厳しい日々、友人たちは睡眠を多く取ることをすすめます。やっぱ

り寝る回復力が一番です。

1月17日 快晴の午後に姉の面会。新年の挨拶からはじまり、子供時代の正月を思い出しました。昔からよくおしゃべりし合う仲良し姉妹でしたが、家族も生活もある姉に頼ってしまう私です。ごめんね！ と言いつつ。

今日「教授」紙交付予定のところ「まだ検討中」とのことで見送られてしまいました。

Yさんも元気ね。ありがとう。読書中の本、昔読んだのですが（昔のタイトルは「破断層」広川隆一）機会があったら再読したいです。庭にはどんな花咲いてますか？ Kさん「オリーブの樹」励みとして読んでくださっているとのこと、嬉しいです。こちらこそ励まされています。90歳の時の母上の短歌もいいですね。京都宗蓮寺の御仏と笹百合の写真がいいですね。ありがとうございます！

Kさんエールをありがとう！ お餅もお節料理も食べましたか？ とのこと。ちょっと味わった感じで食べました。満足ならず！

U君、そちらも都知事選「脱原発」の候補一本化期待し、名護市長選圧勝で安倍暴走路線ブレーキを！ とのこと。考えは私もそうですけど、むずかしそう。日共は党利党略の「自共対決」構造のためには細川氏に譲る気はないし、宇都宮氏も日共の献身で今更退けないといったところでしょう。それに細川氏には反共、自民勢力らがわっと加わっているし、「脱原発」候補分立で自民・公明連合の組織票を持つ「舛添勝利」の愚に陥るのもありえますね。U君、ちょうど安田講堂に立てこもった東大斗争の日の18、19日ですね。最後までブントの旗を振ってたのを思い出します。もう45年。17日の今日は現思研のみんなで意志一致して氣勢をあげたのですね。経験した者たちにとっては、少し前のことのような記憶です。

1月20日 名護市長選で辺野古移転反対の現職稲嶺市長が再選されました！ よかった！ あれだけ謀略的に仲井真知事が秋から動き、安倍首相に会って埋め立て承認を演出し、自民党の候補一本化圧力に金で脅して来たのに、4000票の差をつけ名護市民はノーを示して稲嶺再選へ。仲井真の「負けない手応えがあり、アレツという感じが強い」という言葉に示される傲慢さ。でも、この傲慢さで、安倍政権と一体にどんな次の手を打ってくるのか？ 安倍政権の暴走を止める人々の意志が示されたことにホッとしつつ、本土の側

の私たちの方こそ聞かれていると実感します。東京都知事選しつかりです……。でもねえ……。Tさんは子供たちとコンサートを楽しんだとのこと。こんな一句「子供から一句飛び出す家族鍋」。

1月22日 今日午後は「新春クラシックコンサート」。去年の1月と同じメンバー、テノール黒田晋也、ピアノ黒田聡子、バイオリン早稲田桜子のお三方出演で1時間と少し楽しみました。まずピアノ独奏ショパンの「ノクターン」からテノールで「故郷」「あわて床屋」や「まちぼうけ」など軽快に笑わせ、次にバイオリンで「チゴイネルワイゼン」。これが好きなので聴き入りました。そのあとは「チャルダシュの女王」や「マイフェアレディ」からの愛の歌。みんなと「上を向いて歩こう」を合唱し「心の瞳」を熱唱。話も面白く歌の演奏も熱気。それに広い講堂は何台もの大ストープで暖かかった良いコンサートでした。『憲法読本』や雑誌などありがとうございます！「教授」も届きました。手違いで新年挨拶が届いていなかったようで載っていませんでしたね……。

1月24日 快晴続きで窓の外は春の陽のようにキラキラ。

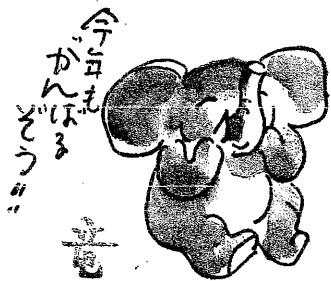
新聞は昨日から始まった都知事選の様子が大きく載っています。あーあ、と溜息。この様子では舛添の楽勝でしょうね。脱原発候補はそうでなくても様々な隘路でマスコミや企業妨害もあって選挙ではむずかしいのに。「脱原発」、本気本当ならゆずり合っても一本化出来たでしょうに。

海外ではダボス会議で、安倍首相は「法人税引き下げ」を言明。消費税増税を見込んで大企業のための政権の姿。同じスイスでシリアの和平を話合う「ジュネーブ2」が22日から始まっています。「ジュネーブ1」（2012年）では「アサド退陣、アサド抜き移行政府樹立」を決めていたのに、今回は「アサド氏退陣擱上げ論も」との記事。国連は当初イランも招請していて、反体制派「国民連合」が「イラン参加なら出席しない」と声明。イランも『ジュネーブ1』のアサド排除を認めない」との口実を招請を取り消したところ。誰もこの会議の進展を期待はしていません。まず反体制派の「国民連合」は欧米の意向に沿うが、実際には国内の実体のきわめて少ない在外シリア人たちであること。この会議の前に「国民評議会」や軍など「国民連合」から批判して脱退したとのニュース。加えて欧米の思惑が変化していることも大きい。

「フォーリン・アフェアーズ・リポート12月号」で「米外交問題評議会」名誉会長のレスリー・ゲルブは「シリア連邦国家の形成を——アサド政権と反政府穏健派勢力の大同団結を模索せよ」という論陣を張っています。つまり今のままでは反政府派に軍事支援してもうまくいかない。「まず『誰がアメリカの利益にもっとも大きな脅威を突きつけているのか』を考える必要がある。それはアサドだろうか」と問う。そして「アルカイダ勢力」こそアメリカの敵であり、又、アサド政権と反政府穏健派勢力の敵である。故に、アサド政権と反政府穏健派が「反アルカイダ」で共同するようにしむけ、最終的にはアサドのアラウィ派とスンニ穏健派による「連邦国家の形成」を目指すべき、という主張です。そしてこれまでは、「われわれはシリアのことを理解していなかったことだ」とし、「この意味でシリアはアメリカのベトナムにおける経験と似ている。相手が誰であるかを理解していなかったがゆえに、われわれは間違いを犯している」と、アサドがすぐ倒れると考えたあやまりを含めて再考を促しています。一方で、「ジュネーブ2」の陰では、カタールやサウジも会議に参加しない反体制勢力を支援しているはず。外部勢力の思惑に犠牲を強いられる住民たちはますます居場所を失っているというのに。アメリカはまったく自国の利益ということ。

人民新聞やお便りありがとうございます。私の新年挨拶、悪筆のためか「NSC」が「NBC」となっていました。もう人民新聞も1500号を越えたのですね。60年代から「新左翼」の名で刊行していました。私が知ったのは71年か72年、アルハダフのPFLP事務所に「毎日」「朝日」と「新左翼」の記者としてWさんがみえた時です。以来交流し、私たちの斗争の声明など発表してくださったりして、弾圧を受けながら断固としてはねのけ、今に至っています。その間「人民・人々の新聞に！『新左翼』なんて業界紙みたいな名をやめよう！」などと話したりしました。「持続」こそ「能力」であり、「アイデンティティ」であり、人々との信頼を育てるとつくづく思いつつ毎号読んでいます。

1月27日 今が寒さの峠なかもしれません。最高6℃最低-6℃です。でも太陽燦々。ベランダに出ると空気がひりひりと冷たい。日々草もパンジーも元気でみずみずしい。友人の便りには新年の仕事の計画と目標が記されていて、生産的活動の意欲はやっぱりうらやましいです。社会に帰って自分も働く姿を夢想し



楽しんでます。Tさん“名護勝利奈良人われも嬉しくて三線引き寄せ民謡歌う”の一首。名護の選挙結果は沖縄県民全体の願い。胸熱くなりますね。それなのに、東京では大多数の都民が「脱原発」望みつつ、都知事は自公のものになってしまいそうです。

1月28日 午前9時過ぎのベランダ運動の後すぐに入浴。新聞を読んでいた11時過ぎに姉の面会。手遅いか1時間以上待たされてしまったとのこと。寒いのに申し訳ないです。家族の話をして楽しいひと時は終了。

午後ちょうど届いた「靖国一天皇制問題情報センター通信」で、安倍靖国参拝批判の論文など学習しています。靖国参拝に対し、「憲法20条が危ない」と訴えています。「自民党政憲案」では現在の「20条」の「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動をしてはならない」の条文に、こんな一文を付け加える魂胆です。「ただし、社会的儀礼又は習俗的行為の範囲を超えないものについてはこの限りではない」。戦後レジームからの脱却は、危険きわまりない過去の讚美を国民に押しつけようと謀っています。それを「20条」でも知りました。

Tさんのお便りにこんな一句がありました。わが父の姿が浮かぶ句です。“不器用なわれは父なり冬深む”。

1月29日 ベランダ運動で話しています。「都知事選挙やってるんでしょ？ ちっともマイクの音聞こえないね」。そう言えば、そう。選挙の低調さなのでしょう。午後は1時間のTV観賞。「河口湖の紅葉の富士山」の番組。

旧友のお便り。あまりに「人間らしさ」が損なわれていく現在のあり方に、ジーンターゼを模索しています。「ことに若者は都会に出ていって残るは『高齢者』人口はどんどん減少していくし、農林水産物は流通に買い叩かれざりざりの生活。田中角栄ではないが、人々

の生活のための『日本列島改造論』が必要なでしょう。私たちは『世界』と『日本』の政治経済の在り方を学習する塾を作る必要を感じています。右には『松下政経塾』などあるのですが、まっとうなのがない……」大切な大志、構想が実現することを心から願います。そんな便りはうれしいです。多くの友人たちが共通の想いかられているでしょう。希望は視野を開き、鳥瞰的にとらえる機会を与えてくれます。私も学習に励まねば！と心しています。

1月30日 午後はコーラス。童謡はなつかしいものと今の幼稚園などで歌う「アーアイ」「アイアイ」と掛け合うのとか。それと「花は咲く」。大声を出すと身体が温かくなります。

今日受け取った新聞、「刺戟だけで新万能細胞IPSより作製簡単STAP細胞」の驚きの内容。小保方晴子さんは「管を通すと幹細胞が現われるのに管を通す操作をしないと幹細胞が見られない。『とり出している』のではなく『刺戟している』と（管を通す操作を）考えるに至った」と説明していて、その発想の転換に感動しました。若い研究者の発見に誇らしく称賞の拍手です。「先端技術」のあり方には批判や意見もあるでしょうが、理科大好き少女（60年近く前の！）としては嬉しいニュースでした。その若さの柔軟な発想にひき換え、何ですか東京オリンピック委員会の面々は……。『神の国』の森・武藤などオリンピック便乗の自民党私物化の姿。利権派閥官僚の旧いシンボルの名誉職のごとくに、センスが安倍政権にピッタリ。デジカメ歌人から“大寒”に雪化粧した百日紅の樹の写真。満開の桜を思わせます。“枯れ枝に白き花持つ百日紅「一日白（ひとひしろ）」なりわが町の雪”の一首がいきいき、いいですね。ありがとう！

1月31日 今日は旧暦の正月、春節です。快晴続きで暖かそう。「フォーリン・アフェアーズ・レポート」資料、それから友人たちの「祭」の様子の写真も届きました。「フォーリン・アフェアーズ・レポート」では「国際政治と謝罪のリスク」（ジェニファー・リンド）では、安倍靖国参拝問題に関して論じています。何度も謝罪しかんりの賠償もし、実直な歴史教科書を出版したドイツと比べて日本のやり方を批判する人も居るが、日本のやり方“過去の残虐な行為を取り繕い、自国の戦没者を吊ってきた。そして東京だけでなく、ワシントン、ロンドン、テヘラン、テルアビブを含む、世界各国の保守派は、謝罪を求める声に強い反発を示

してきた”とドイツのあり方こそ稀だと捉え、“むしろ説明が必要なのはなぜドイツが深い反省の念を表明したかだろう”と述べている。そして今のままでは、“東京は自国の歴史に派生する地域関係の緊張を永続化させることに手を貸してしまっている”とのこと。「戦後レジームからの脱却」は、結局「ヤルタ・ポツダム体制打破」であり、かつてブントが「ヤルタ・ポツダム体制粉砕」などと唱えたこともあったけれど、右からのそれですかと安倍発言からシレット出てくる本質を思います。

M子さんお便り感謝。えっ！ 彼は釣りの元旦、大漁のあと足滑らせて転倒とは……。『右腕肘関節脱臼』でしたか！ でも本当に頭とか打たないで良かったですね。写真は健康元気そうだし、もう大丈夫ですよ！ スパイクのついた磯ブーツでも滑ってしまうなんて……。彼には「45センチの大きなメジナ8枚の“大漁の良かったことだけ”元旦の計とするように！」って言ってください。M子さんも体調崩したのですね。でも春節や立春で気持ちをリセットして元気でください。虎の大縫いぐるみもニャンコもワンコも楽しく賑やかですね。毎回手紙でかわいい犬と猫の共存やいたずら、つぶらな瞳を楽しみにして見えています。チャーチル君はまた新しい家族の一員ニャンコですね。名護市長選挙に較べて、東京は「舛添楽勝」らしいです。このことがまた沖縄に悪いフィードバックとなるでしょう……。『安倍を早く政権から引きずり降ろさないと、日本は戦争に引きずり込まれかねません』とM子さん。本当に……。『ガン特集』も読んでみたいです。ありがとう！

久しぶりのHちゃんの便りは「東京都知事選について一筆啓上。細川護国候補を支持し応援します」とのこと。彼らしいエネルギーさ。昔の「思い込んだら命がけ」の無私の若きリーダーだった彼を思い出しています。

Tさん思考の冬、様々なことに立ち向かう姿浮かびます。“隣り合うあなたの孤独冬銀河”。私の方は“あれもこれも希望並べて一月尽”。ネガティブなことは今日の正月で新年新しく！の私です。

2月4日 昨日の節分までの快晴が今日の立春に崩れ、午後からは初雪の八王子です。今年の初雪は遅く、窓の外一面の銀世界。夜には止んで、窓を開けると、しんと夜の音がしています。雪で運動は中止。でも午後はTV観賞で「相棒」。悪徳刑事の誘導による「証人調書」のために冤罪服役した犠牲者が証人を殺して

しまう話。右京が悪徳刑事をなじり、視聴者は酒飲を下げるストーリー展開。でも結局日常的にくり返される調書の誘導は一つのネタで警察の正義は残るのでした。おもしろかったですけど。

“名護勝利閣を照らせり月冴ゆる” Tさんの一句。そのとおりですね。「陳述書作成」の件、弁護士の助言は貴重です。法廷に最大限活かせるよう最善を尽くされますように。

2月6日 昨日雪かきでグラウンドの隅に寄せていましたが、寒いので雪はそのまま残っています。昨日は4℃〜7℃、今日は5℃〜6℃の八王子。立春からぐんと寒さが増していますが、春はもうすぐ。

午前中グラウンド運動前の10時過ぎ主治医の診察。「もう一区切りですから、血液検査の他、大腸内視鏡、胃カメラ、CT腹部と胸部の検査をしましょう」と告げられました。主治医は言いませんでしたが、この検査で「異常なし」となれば移監となると思います。小腸の検査が本当は出来ればいいのですが……。と先生もおっしゃっているように、私の再発の問題は小腸なのですが、これはむずかしいようです。東拘で一度外部から器機を入れてチェックしてくれましたが、その時には見つかりませんでした。この時には管の内部をチェックしていたのですが「PET検査」で発見し、2012年小腸リンパ節に出来ていたガンを摘出したのは管の外側後腹膜に出来ていたのです。小腸は細く長いので発見はむずかしい。まして外側に出来ると、PET以外ではむずかしいです。刑務所の本読んだあとですが、医療刑のような定期チェックは期待できません。

CVポートのフラッシュをして診察を終えてすぐグラウンドへ移動する人々に合流。空気はピリッと冷たく、空は白っぽい、「寒いので走ろう！」と若い人と2周。フーフー。でもマンサクの黄色のみごと花盛りです。雪がトラックを縁取りのように寄せてあって、マンサクの辺りは下は雪。花に向かい合ってラジオ体操。雪の下にはクローバーの緑があちこちに萌え出ていました。マンサクを見ながら「あ、最初の大腸小腸大阪の手術から5年目だ。あれは2月3日。でも3年目には再発してしまったけど……」など考えつつ新しい気持ちで深呼吸。

資料感謝。「ジュネーブ2」前後のシリア・レバノンの様子ありがとうございます。デジカメ歌人大寒の水仙と白柘助の写真と共に一首。“鈍色の空に広がるセンダンの実一枝手折ればパラッと離る”。



2月7日 検査が始まりました。まず今日は血液検査、潜血反応検便、検尿です。朝終了。

初めて都知事選のマイクが遠く聞こえて、窓を開けて聴くと、宇都宮候補の宣伝カー。すぐ通り過ぎました。面白味に欠けて庶民は投票率を下げてしまいそうな都知事選では? と思いつつ。庶民の味方の宇都宮さんは勝てそうもないし……。

お便りありがとうございます! 「創」もありがとうございます。

2月8日 起床時から粉雪がずっと降り続いています。グラウンドも階段も埋まって風も強くなってきました。都心でも10センチの積雪で大雪警報です。雪を見つめているうちに、遠山さんや山田さんら「連合赤軍」の友人たちのことが思い出されてなりません。黙禱を思わず捧げて、それからシリアやレバノンで雪の中戦火の中にある友人たちを思い返しています。

今日の最高は2℃最低も-2℃。都心の気温は4-0℃。やはりこちらは寒い。就寝時、窓を開けて外をうかがうと雪は止んでいます。ラジオでは「八王子5時現在積雪30センチ」とのこと。今では40-50センチありそうです。

2月9日 一転の快晴。窓の外の出っぱりのコンクリートの上に40センチほど積もっていた雪は昼にはもうなくなっています。でも見渡すグラウンドの雪世界はまだ土や枯草が見えないままに積もっています。今日は都知事選投票日。結果はもう出ているようなものですが、どうでしょう。それからソチ冬季オリンピックも始まっていたのでしたね。外の世界の様子は時間差で知るとして、送られた本『蒲公英 101歳』をじっくり読みました。[以下★読んだ本★]

2月10日 昨夜就寝減灯9:00直前にベッドに入ったところ、スポットニュースで「舛添要一氏が当選確実としました」との報。朝届いた朝刊には、まだ開票が3割ちょっとの記事です。投票率は低いとのこと。雪のせいもあるけど、それよりも是非入れなければ! と思える気分にならなかったでしょう。もし「脱原発統一候補接戦!」なら「脱原発」を願う都民はもっと投票に行って投票率を上げたでしょうけど。

今日は薄曇りの晴なのですがベランダは雪で運動は房内。午後は13:30-14:10茶道。「袱紗捌き」を学習し「お点前頂戴致します」と抹茶をいただきました。18歳、キッコーマンの社員時代にやったなあ……と思いつつ。

2月11日「祝日」。昨日今日と陽が当たらず、一面の銀世界の獄の庭。今日昨日の夕刊共々新聞が届いて都知事選の得票がわかりました。

今回の選挙の特徴は、第一にやはり低い投票率46.14%でした。組織票、自民・公明「連合」の原発再稼働勢力が舛添候補に有利に作用しています。でも「組織力」でも2百十余万票で都民有権者の20%と低い。第二の点は「脱原発」が焦点化されたこと。舛添は「自分も脱原発」と争点をズラして、元厚生大臣の厚生福祉やオリンピックを強調しました。それでも「脱原発」は焦点化され、有権者は宇都宮・細川合わせて有権者の18%強と拮抗しました。もっと早くから脱原発を都政策の中に統一して位置づけていたら、さらに得票は伸びたでしょう。安倍政権の危険なあり方に対し、細川・宇都宮に「統一候補」を求めた「良識派」の人々の願いは叶いませんでした。日共は「自共対決」が党の「当面の戦略的政策」なので、「候補統一」など考えもしなかったでしょう。これまでと同じパターン「多数派形成」日共中心の「民主連合政府構想」論です。これでは政権批判の「批評票」の浮沈から脱せません。全局の利害を第一に考える党の役割を求めたいところです。

第三の点は、新聞によると、若い層の投票行動が右派の田母神候補に流れているとのこと。安倍政権に呼応した「靖国」や「戦前美化」の発言が、閉鎖状況に「誇り」を与えているらしい。61万人が投票しているとのこと。安倍首相と呼応した在野の改憲勢力は戦争侵略を美化し、「戦争出来る日本」へと勢いを増しています。歯止め対抗するべく名護選挙勝利から都知事選の教訓をいかして、統一を戦略的に活かせる活動を! と心から願っています。

2月12日 雪は溶けず寒い日が続きます。そうだったな……八王子は立春がもっと寒くなるんだったなと思いつつ。ベランダ運動は中止とならず、ラジオ体操とウォーキング。それでも四方に雪を寄せてモケットが濡れているため歩ける範囲は狭くなりました。雪をちょっとさわってリアル冬! を実感。雪の横でプランターの元気な日々草の緋色と白。顔を近づけると良い香りです。寒さに慣れて冬の外気も先週金曜日以来で良い気分。今日はノート検査。午後はTV「金スマ」の「肩こり、ふくらはぎもみ、腰痛治し体操」で、これは役立ちそうでした。房に戻って血圧測定の後、「明日胃カメラ検査です」と告げられました。腸とちがって胃カメラは洗浄しなくていいので大変ではあ

りません。

今日のTさんの句は良い! 同感です。こちらも同じです。「雪景色目覚めて窓を開け放つ」。明日、グラウンドのマンサクの満開、午前からの胃カメラで見る機会なく来週になりそうです。

2月13日 今日は胃カメラ検査です。朝食はなしで10時半から11時頃まで。まず手術室のある中央棟4Fへ。氏名と本日の用件を本人の口から確認します。そして手術台へ。まず白湯の液体をお猪口一杯くらい飲む(聞かなかったけど胃の動きを抑える薬?)。その後麻酔液を同じくらいの量口に含んで仰向けになり、3分したら吐き出しました。そして主治医がみえて、横臥しマウスピースを口に噛んで、身中にカメラが入ってきました。何度か「おえっ」となりつつ順調にチェック。いくつか小さい黒子のような点、胃炎の小さいもので問題なしとのことで、腫瘍もなく、10分弱でカメラチェックは終了。モニター画面を私も見ながら主治医の手際良いチェックで早く終って、しかも何も問題なかったのがホッとしました。「麻酔がとれる1時間後くらいになってから食事、水を摂るように。器管に誤飲しないためです。看護師が知らせにきます」と言われ房に戻りました。

「はなかみ通信」「地域アソシエーション」「キタコブシ」「選択」なども午後受け取りました。「はなかみ通信」は「春一番」号、今号の特集は「水は暮らしのもと」。ゆっくり読んでみたいです。Kさんお便りの椿、写真ありがとうございます。教えてり求められて多忙の日々、元気でいてください。「星屑ゆる美しすぎて悲しみが」。句を続けているのですね。

2月14日 朝から雪が降り続いています。これまでの残雪の上にどどん降り積もっています。今日の最高気温は1℃で寒い。寒くてちぢこまっている日はお便りや資料がありがたい贈り物です。今日はそういえばバレンタインディ。新聞によれば、イタリアのテルニ村で異教徒間の結婚を祝したためにローマ帝国に処刑された聖バレンタイン司祭の処刑日が2月14日で、この日が愛を誓う日になったとか。夕食にチョコではなくプリンが添えられました。

今日は「パレスチナに愛を」ブログ管理人よりシャロンの記事。その他に都知事選をめぐる資料。ブログのプリントなどを送ってくれました。「脱原発候補」の統一に動いた人々の話など。鎌田慧さんの意見や八木啓代さんの文も興味深く読みました。「1989年、チ



リではピノチェット軍政を倒すために、極MIRから右派キリスト教民主党まで大同団結して、煮え湯を飲む思いで、かつてクーデター支持派だったエルウィンを担ぎ出して勝利した」と。「国共合作」は戦略がないとむずかしいですね。

午後、Yさんから、2月の「土曜会」報告ありがとうございます。土曜会も冒頭からNさん(某誌編集長だった時からの分析力)の都知事選投票前の動向分析。結果はNさんの言った通りでした。安倍の一連の政策に対して、「勝てるチャンスがあったかもしれないのに、最初の戦略が失敗したことを残念に思っているところだ」と。「柏崎刈羽原発に関する情勢報告」「テント裁判報告」それにNさんの60年代回顧のゲストスピーチ。またちょうどあった「生田新年会」の報告も楽しそうです。生田新年会は明大生田校舎の人が呼びかけ、「明大土曜会及び小田急共闘会議(小田急沿線大学)参加で50名弱で交流、意気あがる会」だったようです。二次会のたけし(柳家三壽)の寄席は場を華やかにひき立っていますね。「土曜会」報告は何度読んでも楽しい。和尚の説教姿も土曜会全員を安心させますね。いざという時には頼るお坊さんが居ます。

Tさんご多忙のところ寒中見舞いありがとうございます。いつも「キタコブシ」の友人たちの声、将司さんの考え方、近しく読んでいます。Tさんのたゆまぬ様々の尽力に連帯と敬意を送ります。Yちゃんありがとうございます。骨折雪道で「去年」若さいっぱいなのに……。今年もますます元気で活躍を!

安倍首相はまた「オレ様」発言。憲法解釈「最高責任者は私」。立憲主義の否定だと野党側も追求の構え。三件分立も無視し憲法に縛られるべき首相が超法規発言で、裁判所も国会も無視の本音。暴走は海外のみならず日本国内でもっと騒がれて当然なのですが……。

2月15日 先週と同じくらいに窓につき出たコンクリートは50センチ近い雪。雨とみぞれは10時過ぎにやんでも空は降りそうに暗いまま。

2月17日 今日はレントゲンとCTの検査が午後からです。昼食は検査の後なので待機している1時過ぎ、義姉・姉が面会に来てくれました。雪の中大変だったでしょうに。二人は14日バレンタインデーに待ち合わせて来る予定が大雪で今日になったとのこと。指名医の歯科医も来てくださるようです。家族の話で三人で大笑いしつつ30分終了でした。

戻って2時半近く、検査の呼び出し。中央棟でまずレントゲン胸部撮影してCT室へ。CT室で胸と腹の普通のと造影剤入りのと各1回撮影して終了。造影剤のため水分を多めに摂るようにと言われて帰房。

「通販生活」プリント資料も受け取りました。感謝。「通販生活」前回の「脱原発特集」に続いて「集団自衛権の行使容認」が「憲法9条」解釈で破壊するあまりに横紙やぶりの安倍政権を問う問題提起。「暮らし」から問う視点は興味があつていつも読んでいます。ありがとうございます。

2月19日 今日は新春演奏会。去年までの菊千代師匠でなく、今日は林家英平、まめ平、マジシャン翼のマジックと野口寅次郎の寅さん。落語はまめ平さんの「てんしき」です。マジシャン翼の鮮やかな手口に全員オーという感じで1時間を楽しみました。

その後主治医の診察で、この間の検査結果を伝えてくれました。まず胸部レントゲン写真を見ながら異常なし。次に胸部腹部のCT写真を見ながら「私が見たところ異常なしですが、専門家によく見てもらいます」とのこと。それから血液検査報告、腫瘍マーカーは正常範囲でした。CEAは前より0.1下がって4.6、AFPも8.5、CA19-9も14.3と正常範囲でした。他にカリウムが少し高め、尿に潜血反応があつたが白血球は検出されていず、わからないがたいしたことではなさそうでした。腫瘍マーカーが正常範囲なので、あとは大腸内視鏡検査を来週やれば検査は終了です。体調は長い間ガンだった割に元気に回復しています。今後の再発は気になりつつ、今は健康になったことを喜び、祈ったり支えてくださったみんなを思い返しつつ、新しい条件の中でも元気で生きていこうと思つてるところです。

Kさん励ましに感謝！ 救援も届きました。

2月20日 八王子は雪害対策本部を15日から設置して50センチの積雪に大変の記事。道路も車が通れるくらいで両サイドはまだ雪。近郊でもまだ関東で村が孤立したままというのも解消されていないらしい。八王子も雪害の本部設置は初めてらしい。庭も一面の雪が溶けず、今日のグラウンド週1回の屋外運動は中庭へ。まわりはまだ雪に覆われていて、5メートルくらいの除雪した枯芝の上でラジオ体操。まわりの雪で小さな掌サイズの雪ダルマを作ったり、おしゃべりしたり狭い枯芝の上をくるくる走ったり。外の空気は気持ちいい。房に戻って「はなかみ通信」を読んでいたら、「文化こそ戦争を減らす」という鈴木正さんの一文に第一次吉田内閣で憲法担当国務大臣の金泰徳治郎の話が出ていて、ああ、この人なら、鈴木安蔵らの民衆の憲法草案を読み活かしただろうと思いつつ読みました。(前に『憲法読本』で読んでいたのを思いつつ) “地中海恋してオリーブ春を待つ” 香り女さんの句です。

2月24日 週明けでもどんよりとした空で気温も上がらず、10日前の雪がまだ溶けず、庭も運動場も覆っています。爪立って塀の外の白梅を今か今かと見えています。つぼみがもうすぐ開きそうです。

宮崎先生からお元気なお便りをいただきました。どうぞ寒さに気をつけてください。

デジカメ歌人の雨水の便りにはひな飾りのタペストリーの写真。「私の桃の節句の思い出は、男ばかりの家庭でまるでありません。貴姉はどうですか？」とのこと。私は初の桃の節句は1946年でまだ戦争の混乱で物資のない時でした。でも私のために近くの三軒茶屋に母が着物を売りに行って手に入れたという白磁の品の良い内裏びながあって、毎年桐の箱から「雨水」にとり出して飾ります。そして桃や菜の花を飾り、草餅を母がつくったりあられを飾ったり、砂糖菓子や果実が楽しみでした。姉と歌ったり。とってもささやかでしたが、家族で火鉢を囲んで、こういう時は父の話聞くのが楽しみでした。いろんな昔話や説話をしてくれるからです。姉が東拘に桃の節句に面会に来てくれた時、このなつかし内裏びなを連れて来てくれたことがあります。とっても嬉しくなつかしかったです。

デジカメ歌人の一首 “盛り場の隅に紅色のうす氷踏み割って嗅ぐ昨日の匂い”

安倍政権はまた暴走の道へ「武器原則禁輸転換」。「秘密法」「再稼働」「集団自衛権」。「靖国参拝」以降ます

ます露骨。アジアとも他の国々にも「アベイズム」を認めさせようとする無謀さは「戦後秩序への挑戦」と筆を揮うだけでなく、安倍らの好きな「国益」を損なう道です。野党はあてにならないし……と、勝手なことを言うばかりの私……。

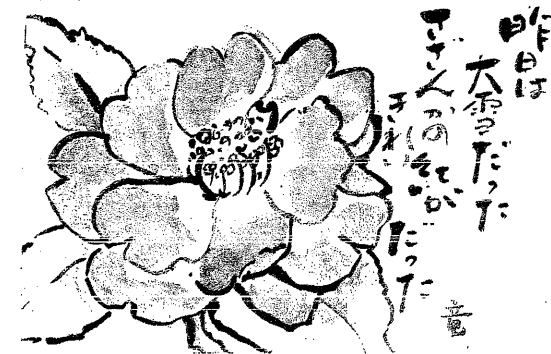
2月25日 快晴。雪は少しずつ溶けているのですが、まだ地面の土は見えない八王子です。看護師より明日夕食から流動食ジュース。27日は大量の下剤で腸の洗浄の上、大腸内視鏡の検査と伝えられました。

今日は午後コーラス。いつもより少ない人数で「花は咲く」を習いつつ歌い、また童謡も大声で歌いました。順次好きな童謡独唱で「ぶんぶんぶん鈴がとぶ」を私は歌っちゃいました！

U君お便りと本『獄中からの手紙』(郷隼人著 幻冬舎刊 著者は朝日歌壇に投稿しているカリフォルニア収監者)。検査を終えてゆっくり読みます。

中東、シリア情勢などの資料も受け取りました。シリアの反体制派は「千五百グループ」もあり、その内部対立が激しい様子。アルカイダ系同士含め対立。自由シリア軍のイドリース参謀長はイスラーム戦線に軍事敗北した責任をとらされて解任。これに対しイドリースを解任させるなど「米国の圧力」があつたと自由シリア軍報道官が暴露するなど。米、サウジ、カタールが「反アサド」と煽って支援してきた反体制派は、ますます軍事力学のまさった勢力が他を駆逐するといった混乱状態。すでにレバノンには百万近い避難シリア人が居るという。トルコ、ヨルダンにもエジプトにもシリア人はますますひどい状態なのが資料からもわかります。在シリアのパレスチナの人々も50万人居たのですが、反体制派に与したパレスチナ人の動きから、キャンプが政府軍に包囲され、難民の半分以上が家を失ったとのこと。そして10万人の以上がレバノンや他のアラブ諸国にツテを頼って行つたらしい。シリアのヤルムークキャンプの普通の大きな町のような暮らしを思い案じています。包囲下の困難、そして中立を保ち、キャンプの自治を取り戻そうと努力する人々の良識も活かないのか……と。知合いのパレスチナ人のファタハ、PFLP、PFLP-GCやサイカの人々をも案じています。対立したり戦斗になったのだから……と。キャンプの住民はほとんどそうした解放勢力のどこかと家族がつながっています。「統一」こそが命であり命がけなのです。

2月26日 今日の午後、塀の外の白梅がいくつかほ



ころんでいるのを発見。気のせいかな夜、梅の香がただよってきます。今日は整髪ベリーショート、ちょっと短すぎたかも。でもすぐまた伸びるのでいいか……。

午後はTV「三匹のおっさん」。本を送っていただいた、前に読んだ内容のストーリー。みんな気に入ったみたい。正義が勝たない社会にいと、やっぱり正義が勝つのがいいという感じかもしれません。劇画風。同時代のおっさんを見て、また自分の老いも実感です。

今日の回覧で、4月1日から消費税のためハガキ52円、切手82円、速達270円が280円に値上げの通知と1円切手3月購入するようにとのこと。トヨタをはじめ大輸出企業の免税をやめて基礎的なこういうものには消費税を免じるべきなのに……。

午後からTV見た後に下剤マグコロル250mlを飲み、夕食の代わりに「メディエフ」200kcalの200ml濃縮栄養ドリンクを2本飲みました。

今日の一面には、安倍政権は25日、エネルギー基本計画政府案を決め、原発を「重要電源」と位置づけ、「再稼働を進める」と明記したとのこと。次から次へと、国民の願いとかけ離れた政策を挑戦的にくり出してくる安倍政権に憤りと恐ろしさを感じます。戦前の指導者同様「お国の為」と自爆していく道です。「憲法違反」の数々に司法が歯止めにならない日本。危ないです。

2月27日 雨が降りだした寒い日。

朝8時から11時まで消化管洗浄のムーベン2リットル飲みました。腸洗浄不十分な気がして、さらに600mlくらい飲みました。13時半から14時半まで内視鏡検査。モニターを見ながら主治医の説明を聞きながら実質は40分弱。途中黒いゴミのようなものが

あって3ミリくらいの大きさ。内視鏡からベンチのような器具が伸びてひっぱったのですが、固く腸に食い込んでいて執れず残念。それ以外ポリブ状のものはありませんでした。ひっぱって腸に穴をあけないようにとのことで、問題ないでしょうと主治医。腸内には手術痕がいくつか残っていて、きれいにそれはおさまっていました。「大丈夫異常はありません」と主治医は結論づけてくれました。

房に戻って、15時前に遅い昼食をとったのですが、1時間後くらいから目まいと吐き気。急に血糖値が上がったのか？ 横になっていると担当の人に「どうしたの？」と聞かれて、「ちょっと吐き気と目まい」と言っていたので、看護師が血圧、心拍と血中酸素を測ってくれましたが異常なし。手術や検査など、やるたびにこれまでどうもなかったことが、身体の負担になって体調を崩してしまうのかもしれない。食事が悪かったのか……夕食は食べる気がせず辞退。少しベッドで安静にしていたら、調子は戻りました。ちょうど届いた中東資料やお便りは夜また起きあがって就寝まで読みました。

2月28日 昨日と変わって快晴です。何の日だったか……何かの日だったと思出したのは、71年この日に初のパレスチナ・アラブへの「革命共闘」をめざして羽田国際空港を飛びたった日。当時のさまざまを思い返しながらか、ちょうど早々に指示された入浴中、不遜さを自省しつつじんわりニコニコニヤニヤしてしまいました。当時の友人たちとも、それ以前以降の友人たちとも今も友情が結ばれてあることに感謝します。

昼食前、姉の面会。明日はメイとMのバースデイ、OさんKもバースデイでよろしく！と伝えました。Mの娘NちゃんはB型インフルエンザで寝ているメールがMから届いたとのこと。

3月3日 雨が降って運動は中止。「昼のいこい」が昼食時ラジオから流れるのですが、今日は三輪明宏の「ひなまつり」の歌。何だかさびしそうで考え深そうにあの“あかりをつけましょ雪洞にー♪”の歌が流れました。学生運動を外国に居たせいで「ひなまつり」は子供の頃の思い出しかありませんが、白磁の内裏びなを思いつつ歌を聴きました。窓からのぞくと、白梅がもういくつも咲きはじめています。

新聞ではウクライナ情勢をめぐって緊迫とのこと。ヤヌコビッチ大統領をひっくり返した手口は「東欧崩壊」の時のような素早さ。ゴルバチョフでなく今回は

プーチンだったので、これから、クリミア半島をめぐってロシアは89年のようにはいかないし、また米欧もロシア制裁と緊張しそうです。

3月5日 朝「今日指名医歯科の先生が来られます」とのこと。30分後というので急いで準備。義歯の微調整とチェックに来てくださいました。ちょうど朝から雨の寒い日。申し訳ない。1時間弱微調整し、今月中もう1回みえるとのこと。すでに噛み合わせがズレているため、それを修正すると、実際に食事をしたり嚙んだ上で調節する必要があるようです。そうしないと義歯が割れたり長持ちしないようです。

午後はTV観賞「なんでも鑑定団」終わった3時半、主治医の診察。主治医はCTを専門家に見てもらった結果問題ないとの回答をえたと伝えてくれました。また2月27日の大腸内視鏡の写真を示しながら、3ミリの黒いものは大阪医療刑で手術した横行結腸のつなぎ目の位置にあり、これは金属のホチキスと思われる。問題なかった。無理にひっぱっていたら腸に穴をあけたり、大変な結果になったかもしれないと教えてくれました。そして「大腸は今のところ何の問題もないでしょう。小腸は調べようがないのですが……」と。私の再発移転は小腸のリンパ節にできた「低分化ガン」だったので、主治医は「移転になる場合でも、重信さんはガンになりやすいので、肋骨下のCVポートは抜去しないで、一生入れておいた方がよいと思う」との考えを伝えてくれました。「CVポート器具の不良品の危険は稀にあるが、CVポートは死ぬまで入れて治療するように設計されており、抗ガン剤治療は普通の静脈はムリ。中心静脈に液を入れるので、やはりCVポートはそのままにしておく方がメリットがあります」とのこと。そうか……。私も「不良品」とか判断できないので、じゃあ、抜去せずにそのままにしようか……と思っているところです。

竜子さんたんぽぽのステキな絵ありがとうございます。(忙しいでしょう)でもやっぱり孫はいいですね！)

「文藝春秋」芥川賞掲載のものを受け取りました。また『四十年パリに生きる』の本もありがとう。74年の「パリ事件」や「ハーグ事件」の時には迷惑をかけたあれこれを本からもつくづく理解しつつ、でも明るい著者の生き方に感動。今読みはじめました。

検査結果も良好で、次の準備のために、今ここに居る間に、読むこと、書くこと、最善を尽くしたいと思っています。

今日の新聞に「戦争参加許させない1000人委員

会」が4日発足したとの記事。奥平康弘氏ら憲法学者や佐高さんが発起人。今、意志・行動を下から横へ、そして世界へと最大限広げて立ち向かっていかないと、安倍首相は聞く耳も持たず進めるでしょう。何とか、保守の中にも「集団的自衛権」の「解釈改憲」に反対する勢力を広げなければ。その為にはあらゆる層の人々の声、量的広がり何よりも大切です。全国の友人たちも同様の思いで活動しているのが実感できます。連帯！

3月6日 今日は日本のパレスチナ連帯運動の旧い資料を入手することができました。YさんGさんありがとう。70年代80年代のPLOの東京事務所設置の頃、労働運動や民衆運動がパレスチナ連帯PLOを支えていた姿がよくわかります。人民連帯は82年のペイルート、レバノン侵攻以降「オスロ合意」へと進む中、インティファダの闘いにもかかわらず損なわれていた流れを感じます。「オスロ合意」は失ったものがあまりに大きい……。

3月7日 今日は房管えとなりました。でもすぐそばの南側。もし桜の咲く頃まで居られるなら、枝垂桜が窓から正面に見える一番良い場所です。今日は暖かそうでもペランダには白、濃藍色、緋色のストックの花盛りのプランターが届きました。春は寒さの中で着々訪れています。

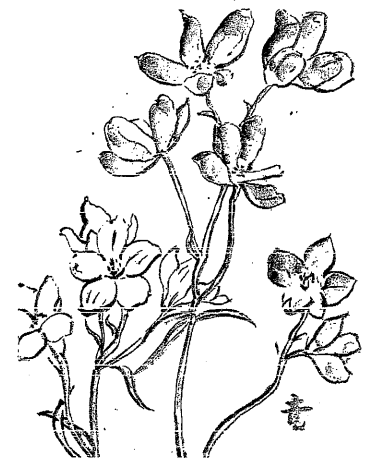
学習すべき資料・本をなんとか3月中旬までにやりとげようと、時間を惜しみつつメモしたりしているところです。

Kさん雪に枝垂桜の美しい庭の写真、そちらも大雪だったのでですね。見とれるほどきれい！孫と娘とひな祭りをされたとのこと、いい時間を過ごしておられますね。忠紀さんも娘たちと墓参し草引きと墓石洗いの心洗われる一時を過ごしておられます。みなそれぞれの生活の中にあふれる息遣いは、獄では忘れる環境にある分潤いを与えてくれます。感謝。

3月8日 女性の日。女性の友人たちをミモザの花と共に思い返しつつ空に向かってあいさつ。そんな週末、送ってもらった『四十年パリに生きる』を読みました。

【以下★読んだ本★】

3月10日 寒さは停滞中ですが、太陽がきらきらと注ぎ、獄の見下ろす庭のあちこちの黒い地面が緑色に点々。タンポポやオオバコ、はこべのようです。ペラ



ンダの新しい細長いプランターに小ぶりの三色スミレが青黄えんじと色鮮やか。「いいね、春らしくて！」としゃがんで花を患者たちも楽しんでます。

今日は年1回の映画会。「紅の豚」というジブリの映画。色彩がきれいだし、歌(加藤登紀子)もよかったです。

房に戻って友人たちからのお便りを共に「紙の爆弾」も受け取りました。大阪の友人からは昨年のガレキ消却以来、地理的にも汚染され、体調を崩しているとのこと。反対運動にもかかわらず7ヶ月にわたり15300トンのガレキ消却がどんなに健康に悪いか……！とお便り。他の友人からはウクライナ情勢、「西」側の反プーチンプランの裏側の様子も。Mさんは3月6日、岐阜地裁へ「泉水国賠訴訟」に出席。陳述書を書きあげたのですね。

点呼後、放送で明日3・11、2:46に放送で知らせるので、黙祷希望者は黙祷をとお知らせ。そうです。3年目を迎える今、津波・原発被害地の人々は厳しい日々を送っています。決してフクシマを許さない！活動は安倍政権が「再稼働」「原発輸出」へと暴走すればするほど、老若男女声をあげつづけます。今日の新聞、日比谷野音の脱原発の集いや国会など、のべ3万5千人の記事。全国各地人々が心底から脱原発を求めている声に連帯します。明日はフクシマからパレスチナへも祈りを黙祷として捧げます。

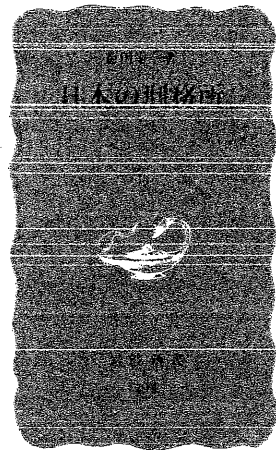
重信さんは2010年8月16日の刑確定後は通信回数枚数が制限され、(月5通、1通便箋7枚)、おもに親族と弁護士宛に通信されています。この「独居より」はその通信の「日誌」部分を編集室が抄出したものです。

★読んだ本★

(「日誌」の中の読んだ本への記述を編集室が抜萃したものです)

重信 房子

週末から今日まで『日本の刑務所』(菊田幸一著 岩波新書)を読みました。



この本は日本の刑務所と受刑者の現実を知ることのできる概略が書かれています。人権基準に照らしてどうか? 法的歴史や根拠と現実、外国の刑務所と比較しながら、日本の「日本型行刑」のあり方や問題点を問うています。受刑者に刑が執行され、刑務所に押送された日からの

日常生活のあり方。外部とのつながりである手紙の検閲や面会。新聞や図書の実情。さらには「刑務作業は労働か」と、現在の「作業報奨金」(はじめは1時間5円70銭!とのこと)の仕組みや懲罰によるそのお金の削減の現実、「天下り」と「収奪」の「矯正協会」の存在に言及しています。

そして最後の章で「規律と懲罰」のあり方を批判しています。著者もことわっているように、「女性刑務所」については、資料などの不足から触れておらず、全国の男性刑務所の例をとりあげながら、その問題点を指摘しているものです。現在の刑務所とその問題点を知る上で、この本は基礎的知識を解説しながら現実を示している良い本です。

まずこの本に書かれている入所時の当局側の挨拶(ドウカツ)に、海外の識者のみならず日本人も知れば驚くでしょう。いわく「……『ここでは職員が黒いものを白いと言ってもそれは白だ。よく貴様ら覚えておけ。ああだこうだ言うのなら、ここへ来るな』。この間は軍隊のように直立不動のまま、けっして動くことはできない。ちょっとでも手を動かしたなら、『三番、こら何やっているのだ』と、ピンタがくるような状況である」と、「民主国家日本」などと恥ずかしくて言えない実情から明らかにされています。

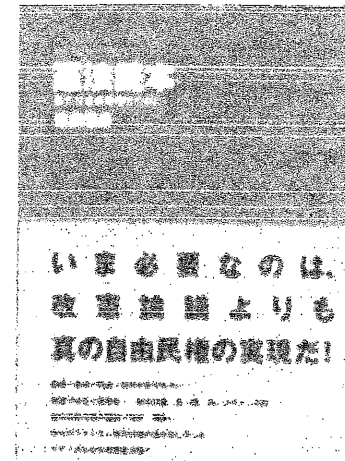
「日本型刑務所」は行き過ぎた「規律規律主義」であり「一日二四時間細かな時間割と規則で縛られ、自由

なのは『息をするだけだ』と受刑者がこぼすのも決してオーバーではない」と著者。こうした措置の多くがわざわざ人間の「尊厳」や「品格」を著しく傷つけるあり方であると批判しています。その一方で、日本の行刑は、「刑務官と受刑者の関係は、法的権利・義務関係である以前におやじ(刑務官)と息子(受刑者)の方策で絶対服従させる」ことを特徴としてあげ、「権力者にへつらうことしか出来ない受刑者のいることが『日本型行刑』の支えになつてはなるまい」と危惧しています。

読みながらちょうど今「国賠訴訟」で斗わざるを得なかった泉水さんの姿が浮かびます。不当な懲罰を科されたり、「へつらわない者」には権利すら許さない……。著者が記しているように、一挙手一投足が規律で縛られ「親と子」の「擬似的人間関係」からは「矯正」など成立しえないでしょう。個々の自発性を許さない抑圧だけでは、「へつらい」と「無気力」を増長させ、良識を殺す装置に刑務所がなっている危険がこの本からよく伝わります。私は拘留所から医療刑に移管され、まだこうした苛酷な経験はしていません。女性刑は本質は同じでありながら、もっと違った面があることは経験した人々の話から垣間見ることはあります。この本を読めば、世界に比しても前近代的な日本の獄の現実——医療・労働・処遇など——が、いかに日本国憲法や世界の人権規約に保障された日本国民としての権利がないがしろにされているかがわかります。

こうしたやり方が、受刑者ばかりか現場当局者を不必要に多忙にさせ、過重なストレスのもとで受刑者を監視せざるをえない仕組みです。人間の尊厳、もっと身近な、たとえば男子受刑者の「坊主刈り」も「受刑者に対し強制的に丸坊主にすることで犯罪者であることの屈辱感を与え加辱の意味をもたせていることである」と述べているように、「判決・法にもとづいた刑の執行」以外のことが多すぎるのが日本のやり方です。法的にも又、当局側の規則の必要にも理解を示しつつ、著者は日本の刑務所の「矯正」のひどさとその効果のない現実を批判しています。まず読んで現実を知ってほしいと思いました。同感しつつ、「視察委員会」が法の執行以来どう有効なのか、「司法改革」や「刑務所医療」なども、もっと新しい資料を加えて実情をさらに伝えてほしいと思いました。(1月27日)

『もうひとつの憲法読本——新たな自由民権のために』(佐藤雅彦著 鹿野社)を読み終えました。本の帯に「いま必要なのは改憲議論よりも真の自由民権の実現だ!」と記しているように、自由民権の斗いを系譜とする現行憲法を多面的に示している点で興味深く読みました。



「現行憲法は、アメリカGHQが勝手に日本政府に押し付けたまがいものではない。少なくとも明治時代の自由民権運動のなかで、民間人(土佐の植木枝盛などが書きあげた憲法草案などを土台にして日本の愛国者たちが作りあげた草案から生まれ

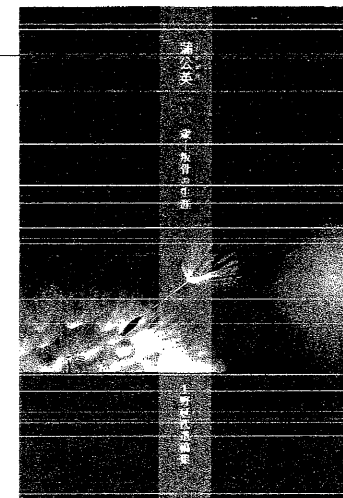
れたものだ」と論じています。そして植木枝盛の業績を世に知らしめた憲法学者鈴木安蔵ら「憲法研究会」が敗戦の45年末に発表した「憲法草案要領」こそが憲法の草案としてGHQに参照されて、GHQ草案が作成されたと捉えています。このGHQ草案が日本の時の政府に渡され、「日本国憲法」はそれを土台に生まれた経過を述べています。この考えは、私もかつて読んだ本と同様に理解していました。

この本の主旨はそこにあり、さらに憲法問題から裁判員制度批判、「一票の格差」の違憲選挙、TPP、秘密保護法などすでに掲載した著者の論文に資料が加えられています。この本の特徴はその資料の充実を示されています。「本書は現行憲法の“自主憲法”としての思想的源流をたどり、世界文明における現行『日本国憲法』の優位性をあらためて実感し、その可能性を展望するために編まれた。現行憲法はいまだ十分に活用されていない」と。資料には聖徳太子の「十七条憲法」「マハトマー・ガンディの『絶対平和憲法』について」、植木枝盛の「日本国憲案」、北一輝の「日本改造案大綱」「日本国憲法」などです。

とくに友人が研究したり話を聞いていた植木枝盛の先駆的な憲法といわれる「国憲案」の内容を読むことができたのはありがたいことでした。この「植木国憲案」が、あの時代に、日本の礎となっていたら……と、

あれこれ想像をかきたてられます。まず日本は七十余州の連邦国家です(藩体制をふまえてですが)。そして日本の現行憲法よりも人民の権利が貫かれている点もあります。思想・宗教・言論や結社の自由はもとより抵抗権のみならず革命権も謳っています。昔、友人が驚きと共に話してくれたのがこれです(七十二条、政府がほしいままに国憲に背き、ほしいままに人民の自由権利を傷[いた]め害し、建国の旨趣を妨げたときは、日本国民はこれを覆滅して新政府を建設してよい)。もちろん拷問・死刑も否定しています。日本国憲法をねじまげている安倍政権には、七十二条こそ!と言いたいです。代えて新公民運動のように「日本国憲法の実現を!」と今こそ声をあげたいところです。それが著者のいう自由民権運動を!と重なります。この本の資料に、もう一つ載せてほしかったのは、鈴木安蔵らの「憲法研究会」が1945年に発表した「憲法草案要綱」です。この本をこの時期に読んでよかったです。(2月1日)

送られた本『蒲公英——101歳 叛骨の生涯 上野延代遺稿集』をじっくり読みました。(蒲公英=たんぽぽ)



一昨日届いた日に一気に読み、今日、上野さんの佇まいを思い返しながら読んでいます。表紙から編集構成の中に、上野さんを敬愛した人々の手でいねいに作られた本だなあ……と、しみじみ感じつつ読みました。「はじめに」では「この本は上野延

代さんが生涯に書いた文章のうち、没後に見つけることのできた文章を編んだものです。ほかにもこれから出てくるかもしれません。上野さんはそういうことを、あまり話さない人でしたので、つねに寡黙に後方に座し、しかもその位置にその人がいることが心強く感じられる人でした」と記されています。また「あとがき」の他の人は、「上野さんは名物婆さんである。拘留所でも、刑務所でも有名だし、弁護士の間でも有名なのだから、きっと裁判所でも有名なんだろう。何が有名か

という、上野の婆さん、雨の日も雪の日も風の日にも、西に政治犯の事件があると聞けば裁判を傍聴し、時には訴訟指揮を批判して『こんな裁判なんか茶番だ』と言い捨てたり、時には『ナンセンス』という法廷の怒号に紛れて不遜なことを言い退廷させられ、東に冤罪を訴える人があれば手弁当で鈍行を乗り継いで刑務所や拘置所に面会に出かけてその声を聞き、南に死刑囚がいると知ればせつせと手紙を書き、面接しては共に泣き、北に裁判の集会があれば、会場の議論に耳を傾けてそっとカンパし、無言で声援を送っているからなのだ』と記しています。

私は2000年に逮捕されて、2001年に公判が始まって、いつからか、いつも少女のような小柄なおかっぱの静かなステキな感じの方が傍聴席におられるのを見つけました。それがのぶ代さんでした。上野さんは「延代」と書かず、いつも「のぶ代」と書いて、お便りで励ましてくださいました。もっとも私は2007年12月の高裁判決まで「接見禁止全部解除」が取れず、当初は弁護士経由で、のちに直接お便りのやり取りをしました。友人の話から「戦前からのアナキストで、治安維持法と斗ってきた意志の強い人」という以外経歴はよく知りませんでした。それでも時々のお便りで、その時々のお便りでも少し触れてくださったりしました。大阪の医療刑で手術をした私に、そこは昔、自分も通った刑務所で、左翼がヘゲモニーをもって看守と折合いをつけながら待遇改善をやっていたことなど記してくださったものです。

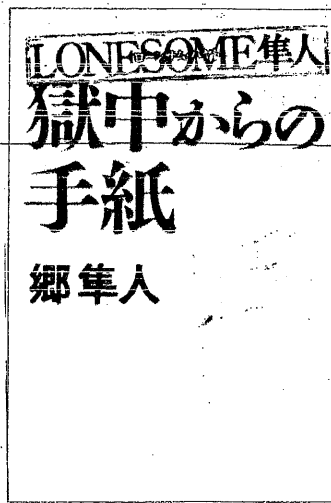
面会に来てくださると伝えてくださったのですが、「接見禁止」が解除されたその頃から、上野さんは体調を崩し、「ファミリーストップ」で外出を控えておられ、お会いすることは叶いませんでした。それでもいつもカンパとお便りで交流して下さり、体調が悪い中、ご家族代筆でも文通を続けてくださったことを思い返しつつ、この本を読み直しました。

そうか、十代からアナキズム運動に接し、20歳で大阪の「アナキスト青年連盟」に参加され同志と結婚し、夫が逮捕される度に差入れ救援を続けておられたのです。戦後「民友新聞」を発行して「小人のたわごと」で書かれたコラムにピリリと辛い世評の名文を連載されていたのを、この本で知りました。このコラム、エッセイのムダのない文に、のぶ代さんらしさ、思想の生き方が読み取れて、ああ、この心意気で101歳まで生き抜いたのだとしみじみ感じています。東オリンピック「インドから来た二青年」「心の機微」「娘の卒論」どれもにんまり同感の文です。生活者の

文だから、そこから時事を切り取り論ずる一言が光ります。他の章で、泉水さんの会報「アッサラーム」に書いている文や鎌田さんの「そうぼう」に寄せている文もいいですね。家族の暮らしも眼差しも一貫してしなやかで、夫を54年に亡くされて七人の息子娘を育てたのも、生きる覚悟が身につけておられますもの。「いたわり」「優しさ」は「強さ」です。

そういえば私の母が2005年亡くなった時も、どこで聞かれたのか我が家に香典を送ってくださったそうで、びっくりしました。「斗った人が困っていないだろうか?」。若い時からのそうした思いやりを生涯貫いた故に、上野さんが派手なことをきらうと知っている人々が、是非とも、この一冊を編んだのが伝わります。上野さんのヒューマンイズムの極致が当時のアナキズムと一体だったのです。それ故に、今も斗う人々の心と結ぶ思想を交わし合えたのだと本から学んでいます。合掌(2月9日)

雪かもしれないと予報でしたが雨。『獄中からの手紙』(郷隼人著 幻冬舎)を読み直しました。



著者は「朝日歌壇」投稿常連で、カリフォルニアのソルダッド・プリズン施設に収監されています。「略歴」によれば「鹿児島出身。若くして渡米。85年殺人及び殺人未遂の2件の有罪判決で収監。以来ライフター(終身服役囚)として28年間カリフォルニア州立刑務所に服役中。96年に「四人ひとり飛び降り自殺せし夜(FREE AS BIRD) ピートルズは唱う」が「朝日歌壇」に初入選」と記されていますが、本名も事件についても秘匿したまま「郷隼人」として歌を詠んできました。

この本は獄での生活を中心に歌とエッセイで綴られており、最後に『ホームレス歌人のいた冬』の著者が、やはり「朝日歌壇」に投稿していた「ホームレス歌人・公田耕一」に関して感想を求めたやりとりが収録されています。ある歌人が、「郷隼人の歌は、自らの事実に向き合わず、内面の葛藤や深みが無い」と評していま

した。その評もうなずけるところもあります。でも、自分を肯定し、「生活者」として獄に暮らし、多民族多宗教多宗社会の軋轢の中で生きる姿が直裁に歌に詠まれていて、上手下手よりも、そこに意味や価値があると思います。「罪を償い生きて日本に帰り父母の墓に手を合わせたい」と念じ望郷抑えがたく、歌を糧に望みをもって生きる姿には胸を打つものがあります。

私には、立場上、もっとも興味深かったのは、実は歌よりも、著者が活写しているアメリカの獄中生活です。日本とあまりに「月とスッポン」ほどの「受刑生活」のちがいが、知っているつもりでも驚くことばかり。カリフォルニア州の獄の秩序のルールを守れば、個人は自由に生活している姿です。(これは資本主義国、第三世界でも当然なことで、日本だけっています。)著者は獄庭に自分で工夫して花壇を造り花を育てたり、刑務官と協力して熱帯魚を飼ったり売店で好きなものを購入して料理もできる。時にはすしを料理して友人収監者を招いて食事会をする……。つまり個人生活に不当な押し付けはないのです。

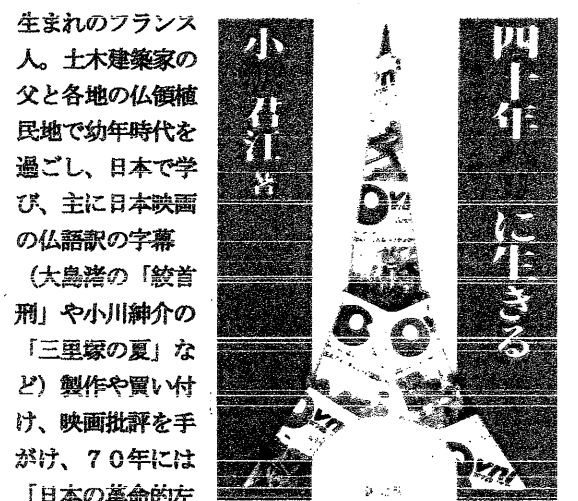
日本では、たとえば男性受刑者の頭髪の長さをミリ単位で丸刈りの強制したり、未決時から房内「定位置」に朝点呼から夕点呼の間座ってなければいけないなど、数えきれない制限を行います。『日本の刑務所』の本にもあったように「矯正」の名で精神や人格を抑圧し屈辱を与える「加辱」に意味を持たせていくようなやり方。それは本来の意味での「法的権利義務関係」ではなく、大部分が現場での「所長達示」の形を通して行われていると記されていたのを思い返しつつ、アメリカの様子を読み進めました。

著者の歌では母への思いを詠んだ歌がやはり共感できます。自らをふり返りつつ、「母さんに「直ぐ帰るから待って」と告げて渡米し三十六年経ちぬ」「囚われて母の死目に会えもせで歌詠むなどと我は愚か者」。率直さがいいです。全部の中からはこんな歌が味があっただけいいと思いました。「よっこらしよとでかい月がけいむしよのやねよりいずるゆっくりゆっくりと」。同じ風景を味わっている日本の私です。(3月1日)

送ってもらった『四十年パリに生きる——オヴニーひと筋』(小沢君江著 緑風出版)を読み直しました。サブタイトルの「オヴニー」OVNIは未確認飛行物体の意。40年以上パリに暮らし、日本語新聞を発行し、民間の日仏文化交流をつくりあげてきた著者夫妻の生き様を記している本です。夫のルネは1942年ハノイ

生まれのフランス人。土木建築家の父と各地の仏領植民地で幼年時代を過ごし、日本で学び、主に日本映画の仏語訳の字幕(大島渚の「絞首刑」や小川紳介の「三里塚の夏」など)製作や買い付け、映画批評を手がけ、70年には「日本の革命的左翼」をフランスで出版し、若松、足立、松田さんら映画関係者とも交流がありました。著者は64年の東京オリンピックにフランス選手団の通訳を頼まれ、早大の学生だったその頃、その仏語通訳の研修に来たルネと出会います。紆余曲折を経て70年に二人は結婚、パリに渡りました。

「若いころ、ルネが『サルトルとボーボワールのように生きよう』といった本当の意味がわかったような気がする」と本の最後に、70歳を迎えた著者が記しているように、二人の生き方は対等に共同し、助け合い、手探りの中から信念をもって生きています。74年にフランスで初めての日本語ミニコミ紙「いりふね・でふね」を発刊しました。その発展としてさらに「フリーペーパー」のアイデアを活かして「オヴニー」を発刊。今やフランスに行く日本人にはなじみの「オヴニー」は発行6万部。81年には民間文化センター「エスパスジャポン」を設立。2010年6月には同時に仏語のフリーマガジン月刊「ZOOM JAPON」が息子たちを中心に発行されています。



日本に居た時からルネと親しかった清水達夫(マガジンハウス創設者)や堀内誠一さん(アートディレクター)の支援、イラストで「いりふね・でふね」は始まりました。ルネ夫妻の尽きない好奇心と創造性が道を切り拓いていく痛快なアイデアの数々が読んで興味深々です。

74年5月に「いりふね・でふね」創刊し希望の船出から間もない9月2日、突如一家(3歳の長男と10ヶ月の次男含む)4人が逮捕連行されてしまったのです。「ドアのベルが鳴ったので開けると黒ジャンパーの50代の男性が、思いもよらない速さでつま先をドアと壁の間に差し込んだ。男はそれからおもむろにD

ST (国家保安局) の証明書と『家宅捜索令状』を見せた。その捜査令状には“捜査理由”として、『国家の安全を脅かす日本人テロリスト』と記されていたが、家宅捜索の対象者の名前も場所も時間も記入されていないフォトコピーだった」と著者。ルネが「氏名も住所も明記されていない家宅捜索令状のコピーでは捜査に応じられない」と答えたので、一家は連行されたのでした。

これがいわゆる「日本赤軍パリ事件」「ハーグ事件」とばっちり被害者だったのです。改めてルネさん著者に謝罪します。75年にもお詫びを在欧の仲間たちが伝えています。当時、在欧の仲間が「いりふね・でふね」にかかわっていたのか、仲間の押収された手帳にルネの電話番号があり、また日本で足立・若松さんから映画人との交流もあったり、日本の新左翼の本を出していたので、日本政府からもねらわれていたのでしょう。「いりふね・でふね」74年11月号に、ルネは「ジャッカルの燃えた日」として、当時のDSTのひどい尋問を暴露しましたが、この本にも一部再録されています。

妻子を拘留したまま、ルネに「取調べに協力しないなら夫人をフランスから追放する」と脅し、『「第一これは何だ!」とどなりながら、(DSTの男は) 押収した物の一つ、長さ2尺の竹の物差しを突き出して見せ

た。『黒い線の中に彫り込んであるこの赤い印は何の暗号なんだ! 言え』と係官は凄んでみせた。数字の入っていない竹の物差しで、日本の寸寸法について説明するのはあまりにもバカらしくて私は黙っていた。ここで私は鼻血が出るほど往復ピスタを食らい…… (以下略)』といった当時の情景が載っています。(私の公判でも74年の「ハーグ事件」のため、検事は「いりふね・でふね」のこをもち出して質問していました)

ルネらは弾圧に抗し、そんな波乱のものともせず、国家や「金もうけ」に価値を置かず、「民間」にこだわりの、自らの力で文化交流を育てる苦闘の数々。そしてフリーペーパー「オヴニー」を成功させていったのは、ルネの思想の確かさと夫婦の創造性や不屈な実行力を多くの友人たちが愛し支えてくれたからだと思えます。幼時拘束された息子が、夫妻の切り拓いた道を「フランスから日本へ」と、さらに育てています。

残念なことにルネは小腸ガンが肝臓へと転移し、四度の手術を経ながらブルゴーニュで静かに暮らしているとのこと。著者は翻訳家としてもパリで活動を広げています。「サルトルとボーボワールのように生きよう」とした二人。ルネはサルトルよりはるかに誠実にその約束を果たしていると感じながら実感しています。(訳植: 同書19頁9行目「絞死刑」→「絞首刑」)(3月8日)

安倍晋三の超憲主義

萩尾 達

安倍政権の暴走は相変わらず続いている。日本版NSC、秘密保護法の強行に続き、沖縄自民党と仲井真知事を恫喝・屈辱させて沖縄辺野古への基地移設を承認させた。(これに対する怒りは名護市長選挙での稲嶺市長の勝利、自民党敗北として現れた。) 続いて、靖国参拝を強行。これには、事前に警告していたアメリカにさえ衝撃を与え、批判された。(単に民主党オバマ政権だけでなく、共和党や多くの議員、ニューヨークタイムス等マスコミからも) 更に、中国・韓国だけでなく、ヨーロッパ・ロシアなどからも批判と警戒の目を向けられた。戦後、これほど外交的に孤立したのは初めてだろう。これら批判にたじろぎながらも、今は更に集団的自衛権の解釈変更・9条の解釈改憲に邁進している。憲法96条改定の目論見(憲法改定の発議を国会の2/3以上の賛成から過半数に修正しようという)も、世論の猛批判で難しいとみて、憲法9条を完全に骨抜きにする集団的自衛権行使に前のめりになっている。先日(2月12日)、安倍は「先程来、法制局

長官の答弁を(質問者が) 求めているが、最高の責任者は私だ。私が責任者であって、政府の答弁にも私が責任を持って、その上において、私たちは選挙で国民から審判を受けるんですよ」と言い放った。憲法の解釈は、政府(行政)の最高責任者である首相が決める、選挙で勝てば(憲法があるが、何をやっても) いいんだ、というわけだ。この発言にはさすがに自民党内からも批判の声があがった。

安倍のこの傲慢な発言は、識者が指摘するように、明確に立憲主義の否定である。選挙で多数を取りさえすれば、憲法の定める正式な改正手続きを踏まずとも、憲法を無視、あるいは踏みにじってもよいということだ。立憲主義ではなく、超憲主義だ。これが現実の意味することは、首相の権限で勝手に戦争を始めてもいい、ということだろう。副総理の麻生はついこの前、「知らない間に、ワイマール憲法が「ナチス憲法」に変わっていた歴史に学んだら」とうそぶいた。安倍のふるまいは事実上そういうことだ。

集団的自衛権行使容認、武器輸出禁止3原則撤廃だけではなく、最新では軍事オタクの石破幹事長は中国を包囲するアジアNATO構想までぶちあげている。韓国とも最悪の関係で、世界中から孤立している安倍政権がアジアNATOを実現できるなどありえないだろう。安倍は、中国とも韓国とも、和解や関係改善の手さえ差し伸べようとはせず、とりわけ中国との軍事衝突・戦争を意識して中国包囲網構築のために走り回っている。軍事費の増大・軍拡路線を進め、尖閣列島(釣魚諸島)での衝突を想定して、米軍の海兵隊のような部隊創設も進めている。戦後、外交的努力もせず、これだけ軍事(戦争)に前のめりな政権は例をみない。現憲法の下で、完全に憲法を軍靴でふみにじる異常な政権といえよう。このような危険な政権を放置しておいていいのだろうか?

安倍の祖父の岸信介もA級戦犯だったがたまたま死刑を免れた。安倍は、岸も含めて、A級戦犯の戦争責任等、認めてはいないからこそ、あえてA級戦犯を合記した靖国参拝にこだわるのではないのか。安倍の言う「戦後レジームの清算」とは文字通り戦前への回帰を意味するものではあるまいか?(もっとも対米従属を断ち切るとかいうものではなく、あくまでアメリカとの同盟を維持強化したいということだろうが、逆に安倍自体がアメリカから軸にされる可能性すらある。) 強引、傲慢な安倍も、ここにきてかげりが出てきた。

秘密保護法等のゴリ押し、国民の7割以上が脱原発支持にもかかわらず頑なに原発推進にこだわる安倍の支持率は急落しつつある。東京都知事選でも自民党を見限って除名された舛添を担がざるをえず、敗れたと

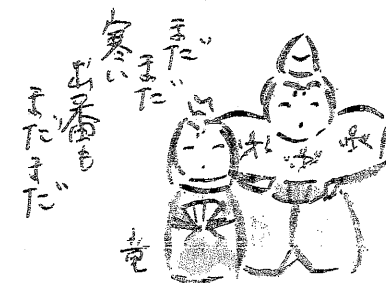
暴走内閣を止める!!

辻 邦

像を録画し、時々再生して観ることがあるが、観終わった後は怒りと嫌悪でいっぱいになる。

安倍の発言は、日本の軍事費の伸びが中国のその10分の1以下であるとの指摘に続くものだ。確かに、最近の中国の軍拡には懸念を感じる。2013年3月5日開幕の全国人民代表大会に合わせて中国財政省がまとめた予算案報告によれば、軍事費の伸びは前年実績比10.7%増で、円に換算すると約11兆1100億円だという。それに比較すれば、日本の軍事費総額や伸びはそれほどのものではなく、「俺様のどこが右翼・軍国主義者だ!」と安倍は言いたかったのだろうか。

しかし中国の軍拡はさておき、就任以来の安倍・自



民公明内閣の右翼・タカ派姿勢にブレは全くない。発足直後から安倍内閣は、村山談話や河野談話見直しに言及し、戦争責任を否定しようとする日本政府の姿勢を内外に明示。中国や韓国、北朝鮮、台湾などアジア諸国の政府・人民の反発を煽る結果となった。また昨年11月6日には特定秘密保護法案を参院で強行採決・成立させ、日本社会の右傾化を国内外に明らかにした。さらに12月26日には、ついに靖国神社公式参拝を強行。これにはさすがに、米大使館と國務省が「失望」を表明した。

こうしてみると、安倍政権の発足以来、安倍の唱える「積極的平和主義」なる妄言とは裏腹に、日本の国際的孤立は確実に進行していると言えるだろう。

だが、反省という言葉の意味を理解できない安倍は、今年2月5日の参院予算委員会で、集団的自衛権の行使容認に関し「政府の判断で新しい憲法解釈を明らかにすることで可能となり、憲法改正は必ずしも必要ない」と述べ、憲法解釈の変更（つまりある種の解釈改憲だ）に改めて意欲を示した。しかし、これについても、ニューヨーク・タイムズが2月19日（電子版）の社説で、首相が正式な改正手続きによらず、自身の解釈で憲法の根幹を変えて集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈変更は「危険なほど近づいている」との懸念を示した。また同社説は、安倍について「他のナショナリスト同様、憲法の条項に記された平和主義を拒否している」と鋭く指摘。首相が憲法の改正に動くことは可能であっても、解釈の変更は法の支配に背くものだとの考えを示している。

もっとも安倍にすれば、外国のメディアが何を言おうと「蛙の面に小便」なのだろうが。

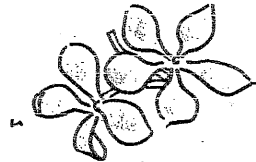
●悪政打倒の突破口

こうした安倍政権のタカ派姿勢に対しては、さすがに大衆の中にも危惧や危機感が芽生えてきているようだ。昨年の秘密保護法成立後、多くの世論調査で内閣支持率が10ポイント程度低下した。

2月24日に発表されたテレビ朝日の世論調査では、内閣支持率は前月より4.5ポイント下がって48.8%となった。また、安倍内閣が進める憲法9条の解釈変更による集団的自衛権の行使について51%が反対。憲法解釈の変更を内閣が決める前に国会で議論すべきとした人は83%にのぼり、「靖国参拝をきっかけに日米関係がギクシャクしていると思う」と答えた人も51%であった。さらに、安倍内閣が進める原発再稼働方針に対しても51%が反対している。

4月から消費税率が8%に引き上げられる。金のない庶民から搾れるだけ税金を搾り取り、一握りの金持や大企業を優遇する税制を推進する安倍・自民公明政権。

もうたくさんだ。第二次安倍政権は、祖父であるA級戦犯・岸信介の政権を上回る、戦後最悪の政権であると断言しよう。しかし、残念ながら現在の選挙制度——とりわけ小選挙区制の下では、自民党絶対優位は揺るがない。だが、失望はしても絶望はしたくない。これから何かが変わる気配は確実に感じられる。あるいは、消費税増税が、悪政打倒の突破口になるかもしれない。



後書

特に企画したわけではありませんが、今号は皆さん一斉に安倍政権批判ないし、打倒の声を高らかにあげ、期せずして、まるで「アンチ安倍政権」特集のようになりました。当然と言えば、当然ですね。皆さんが指摘するように、安倍政権が矢継ぎ早に投げかけてきた政策や提案がどれもこれもこれと安心・安全を願う人々の意に沿わず、人々の願いを踏みにじるものばかりだからです。

国際的には、シリア情勢が一向に和平の方向に向かっていないばかりか、レバノンへもその矛盾が拡大しつつあり、シリア人の難民化と同時に、レバノンやシリアに逃れ住むパレスチナ難民により過酷な状況を作り出しています。他方、ウクライナをめぐる民族対立は、その背後で支援するロシアと欧米の対立に飛び火する危険性をはらんでいます。日本の周りでは、韓国や中国との間で領土問題などを中心に関係が軋み続けています。

今年は、様々なところで様々の矛盾がぶつかり合う年になりそうです。様々な人々の声を通わせ、一つにつなげながら、人々が共に支え合う社会を作り上げるための変革への途を共に歩けるようにしたいです。共に。 Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 122 号

- ①5P左上から2行目 知事選しっかりです→知事選しかりです
- ②5P(1/24)右側下から15行目 自国の利益というと
→自国の利益追求というと
- ③7P左上から9行目 シレット出て→しれっと出て
- ④9P(2/13)左上から4行目 まず白湯の→まず白濁の
- ⑤9P(2/13)左8行目 身中に→身体の中に
- ⑥ 9P(2/13)下から9行～10行目 器管に→気管に
- ⑦ 9P(2/14)右上から 極MIR→左翼のMIR
- ⑧ 9P右下から3行目 三件分立→三権分立
- ⑨ 11P(2/25)左7行目 ぶんぶんぶん鉢が→ぶんぶんぶん蜂が
- ⑩ 12P左3行目 執れず残念→執れず断念
- ⑪ 12P(3/3)5行目 学生運動を外国→学生運動と外国～
- ⑫ 13P(3/7)下から7行目 枝垂桜→枝垂梅
- ⑬ 13P(3/10)右上から9行目 消却以来→焼却以来
- ⑭ 14P左下から2行目 規律規律主義→規律主義
- ⑮ 16P左下から3行～2行目 「東オリンピック」→「東京オリンピック」
- ⑯ 17P左上から14行目 日本だけっています→日本だけ違っています
- ⑰17P右上から14行目 日本の革命的左翼→日本の革命的新左翼